

群 教 七	G01 - 03
	平25.251集
	中・国語

# 自分の考えを書いて 明確に伝える力を伸ばす指導の工夫

— 考えの流れが見える構想シートと学び合いを通して —

特別研修員 西本 一崇

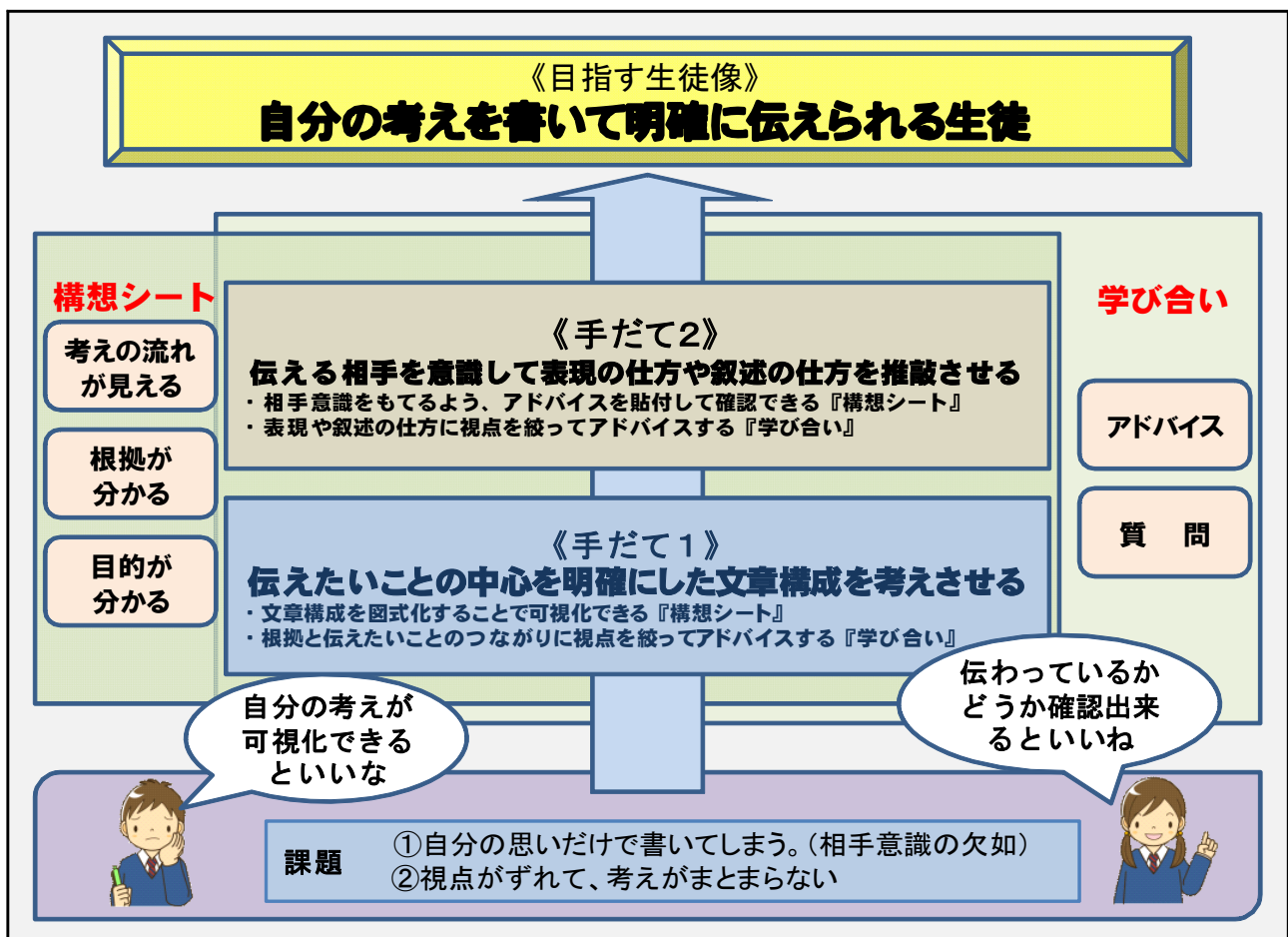
## I 主題設定の理由

「はばたく群馬の指導プラン」の中では、「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」が国語科の課題の一つとして挙げられている。本校でも、書くことの授業の中で、「伝えることをあまり意識せず、自分の思いだけで文章を書いてしまう生徒」や「考えはもてていても、書いていくうちに伝えたいことの中心がずれてしまう生徒」が見られる。

自分の考えをを明確にし、表現することは難しい。しかし、考えの流れを可視化し、整理して客観的に眺めさせることで、自分の考えを組み立てて表現することへの理解が深まると考える。また、伝える相手や目的に応じた文章を書くには、自分の考えだけでなく、伝えられる側の視点が重要となる。そこで、書くことの過程を「構成」「中心文」「推敲」の三つに分け、それぞれの場面で考えの流れを確認したり、他者視点からのアドバイスを活かしたりするような構想シートを作成し、活用させることとした。それによって、生徒の課題解決につながり自分の考えを書いて明確に伝える力が伸長すると考え、上記の主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手だて

単元「魅力発見！！小江戸川越レポート」（第1学年・2学期）において、他者に伝えたいことを考える場面で、表現した文章が根拠をもって書かれているかどうかアドバイスし合うという学び合いを設定した。その際、以下の点に留意し実践した。

### 実践1における研究上の手だて

- 伝えたいことの内容を明確にした文章構成を考えさせる。
  - ・文章構成を図式化することで可視化できる『構想シート』を用いる。
  - ・根拠と伝えたいこととのつながりに視点を絞ってアドバイスする『学び合い活動』を取り入れる。

自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くことができるようになることをねらいとした単元だが、その中で相手を意識しながら書くことができるように学び合いを設定した。他者からアドバイスをもらったことで伝わっているかどうかを確認することができ、伝わりにくかった部分を改善しようとする姿が見られた。また『構想シート』で考えの流れがつかめ、根拠の大切さには気付けたが、説得力のある文章にすることはできなかった。

そこで、次単元「先輩が教えます！〇〇中 life エンジョイのしかた」（第1学年・2学期）では、推敲場面に学び合いを設定し、次のように手だてを改善した。

### 実践2における研究上の手だて

- 伝える相手を意識して表現の仕方や叙述の仕方を推敲させる。
  - ・相手意識をもてるよう、友だちからのアドバイスを確認できる『構想シート』を用いる。
  - ・表現や叙述の仕方に視点を絞ってアドバイスをする『学び合い活動』を取り入れる。

相手意識や目的意識をもって、表現の仕方や叙述の仕方などを確かめ合うことで、より伝わりやすい文章に推敲できるようになることがねらいである。他者からのアドバイスがあったことで、相手を意識して表現の仕方や叙述の仕方をより分かりやすいものへと修正できた。また、アドバイスを見ながら推敲できたことで、最後まで伝えたいことに一貫性をもった文章が書けるようになった。

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 学び合いを各場面で設定したことで、伝えたいことが的確に伝わっているかどうか、読み手の立場に立って確認できた。また、言葉を具体的に言い換えたり読みやすい構成を考えたりと、よりよい文章へと書き直そうとする意識が向上した。
- 『構想シート』で考えの流れが明らかになったことで自分の考えの根拠がはっきりし、最後まで伝えたいことが一貫した文章を書けるようになった。
- 根拠を明確にして書こうという視点をもって学習に臨む姿が見られるようになった。

### 2 課題

- 考えの流れが明確になっても「伝えたいことがはっきりしていない」「構成がうまくできない」など、既習事項が不十分なために文章で表現する力が伸長しない生徒が見られた。前時までの習得状況を見取り、アドバイスがうまくできなかったりアドバイスをされても活用できなかったりする生徒には、段階的に『構成シート』を提示する必要がある。

### 3 提言

- 本実践の手だては、「書くこと」のみでなく、「話すこと・聞くこと」・「読むこと」など他領域との関連付けができ、単元を貫く言語活動を設定しやすい。
- 考えの流れを明確にする『構想シート』は、国語だけでなく、他教科等の言語活動にも応用することが考えられる。

#### IV 実践及び改善の実際

##### 実践 1

###### 1 単元名 「魅力発見！小江戸川越レポート」

～自分の考えや気持ちについて、根拠を明確にした文章を書く～ （第1学年・2学期）

###### 2 本単元及び本時について

本単元は、校外学習で行った川越の魅力について、他者に伝える文章を書くという単元である。本時は8時間扱いの4時間目にあたる。『構想シート』の内容（調べたことやそれを基に考えたこと）についてアドバイスし合うことで、伝えたいことの中心を明確にし、自分の考えを伝えるために必要なことを、根拠を明確にしながらか表現することをねらいとしている。

その中で、伝えたいことの中心がより明確になり、相手を意識して文章を考えられるよう、次のような手だてを取り入れ、実践を行った。

##### 【取り入れた手だて】

- ①文章構成を図式化することで可視化できる『構想シート』（図1）を用いる。
- ②根拠と伝えたいことのつながりに視点を絞ってアドバイスする『学び合い』を取り入れる。

###### 3 授業の実際

導入の段階で学習の流れについて確認したあと、次のような学習課題を提示した。

【学習課題】 構想シートの内容についてアドバイスし合い、中心文の下書きをしよう

##### 構想シートを読み合い、根拠と伝えたいことをつながりを確認する場面

「調べたこと」と「見てきたこと」の二つの根拠

根拠から自分の考えへの流れを図式化

文章構成を図式化

S：（友だちの構想シートを読んで）何を伝えたいのか分からないなあ。

T：自分が伝えたいことと調べたこと（根拠）のつながりを、もう一度、よく見てみたら？

S：調べたことは多いんですが、伝えたいことが「川越の歴史的なよさと近代的なよさ」なのに、歴史的な場所が多すぎる気がするんです。

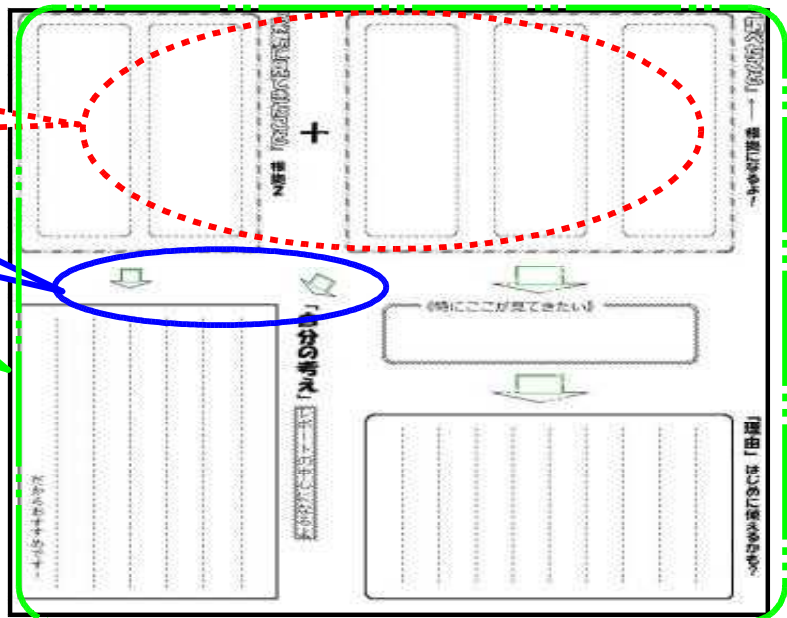


図1 実践1で使った構想シート

生徒は、互いに『構想シート』の内容を読み合い、根拠と伝えたいことのつながりを確認することでその重要性に気付くことができた。そして気付いたことを基にして、根拠と伝えたいことのつながりについて、互いにアドバイスをし合った（図2）。

### 読んだ内容から互いにアドバイスをする場面

- S1：一番伝えたいことは何？  
S2：川越の歴史的なよさと近代的なよさの両方を伝えたいと思うんだけど。  
S1：そうだとすると、歴史的なよさについては伝わってくるけど近代的なよさは伝わってこないよ。  
S2：なんで伝わらないんだろう？  
S1：根拠の部分に近代的な良さが少ないんだと思う。もう少し入れてみれば？  
S2：そうか、根拠が少ないから伝わりにくかったんだ。



図2 互いにアドバイスする様子

多くの生徒が、友達からの付箋によるアドバイスで、自分の『構想シート』のどの部分を改善していけばよいかに気付くことができた。また、自分でもアドバイスをすることから、『構想シート』の修正点に気付くことができた。しかし、調べたことの内容が少ない生徒がおり、アドバイスする側も材料が少ないためにうまくアドバイスできず、活動が停滞しているグループもあった。

### アドバイスされたことから『構想シート』を見直す場面

- (友達からのアドバイスの付箋を読んで)  
S1：思ったより相手に伝わっていないなあ。  
S2：どこを改善すればもっと伝わると思う？  
S1：根拠をもっと増やしたほうがいいのかな。  
S2：ただ根拠の数を増やしてもだめだよ。自分で伝えたいことに合ったものにしないと。  
S1：川越の近代的なよさにつながる、根拠を増やしてみよう。

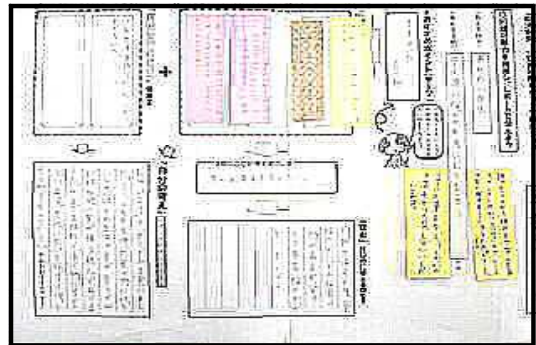


図3 生徒の構想シート

アドバイスされたことを基に、再度『構想シート』を見直し、伝えたいことの下書きに取りかかった。内容を見直す過程では、調べた材料の数ではなく、自分の伝えたいことの基になる根拠を書き入れる大切さに気付いた姿が見られた。一方で、根拠となる材料が乏しい生徒は、内容を見直すまでに時間がかかり、下書きに取りかかるには個別支援が必要であった。

## 4 考察

- 説得力のある文章を書くためには根拠が重要であるということに気づき、それを踏まえて文章の構想を立てられる生徒が多くなった。根拠から伝えたいことまでの流れを図式化したことで、互いの『構想シート』を読み合う視点が明確になり、的確なアドバイスにつながったためと考える。
- 根拠と伝えたいことのつながりについては意識できたものの、伝えたいことの内容が一貫しない生徒が数名見られた。そこで、より相手を意識して文章が書けるよう、友達からもらったアドバイスを見ながら推敲できるような『構想シート』を使い、表現や叙述の仕方に視点を絞った学び合い活動を取り入れる必要性が明らかになった。

## 実践2

- 1 単元名 「先輩が教えます！〇〇中lifeエンジョイのしかた」  
～より伝わりやすくなるよう文章を推敲する～ （第1学年・2学期）

### 2 本単元及び本時について

本単元は、学区の小学校6年生に向けて、中学校の生活について伝えるリーフレットを書くという単元である。本時は9時間扱いの8時間目にあたり、リーフレットの記事を読み合い、互いにアドバイスや質問をすることで、相手や目的に合わせた表現の仕方や叙述の仕方を考え、文章を推敲することができるようになることをねらいとしている。その中で、より伝える相手を意識して文章を推敲できるよう、次のような手だてを取り入れて実践を行った。

#### 【取り入れた手だて】

- ①相手意識をもてるよう、友達からのアドバイスを確認できる『構想シート』（図4）を用いる。
- ②表現や叙述の仕方に視点を絞ってアドバイスを『学び合い活動』を取り入れる。

### 3 授業の実際

導入において、本時の学習の見通しがもてるよう、以下のような課題を提示し、学習の流れについて確認を行った。また、より伝わりやすくするには、常に相手や目的を意識することを全体で確認した。

【学習課題】 伝えたいことがより伝わりやすくなるように記事を推敲しよう

#### グループの中で記事を交換して読み合いアドバイスする様子

根拠とそこからの考えを  
図式化

自分で書いた記事

友だちからのアドバイスを  
貼り付ける欄

(部活動について伝えるグループ)

S1: サッカー部についての記事の中にあるトラップって言葉が分かりにくいよ。

S2: ボールを止めることなんだけど？

S1: 経験がないと分からないと思うよ。

S2: (サッカー部以外の友達に聞いて) やっぱり分かりにくいみたいだ。

S1: やっぱりそうでしょ。他の人に聞くと分かるよね。

S2: 自分はわかるけど、他の人には分かりにくい表現があるんだね。

記事の下書き

アドバイス欄

考えたこと・感じたこと

図4 実践2で使った構想シート

視点を叙述の仕方や表現の仕方に絞ってアドバイスさせたことで、多くの生徒が的確にアドバイスをすることができた。また、自分では当たり前の意味の分かる言葉が、他の人にとっては分かりにくい場合があるという気付きにもつながった。しかし、一部の生徒には漢字や言葉の間違いにのみ目がいきつてしまい、なかなか適切なアドバイスができない姿が見られた。

アドバイスされたことを基にもう一度『構想シート』を見直し、記事の推敲を行った。

### アドバイスを基に記事を推敲する様子

- T：アドバイスを基に、記事の内容を推敲してみましょう。
- S1：(部長・キャプテンの苦勞が伝わりにくいというアドバイスを見て) どんなふうにかえたらいいかなあ？
- S2：自分でそう思ったというような書き方になっているので、聞いた話をそのままの形で入れれば？
- S1：そのほうが説得力が出るかもしれないね。
- S2：他の人に見てもらって、大丈夫か確認したほうがいいよ。
- S1：(友達に見せて) これなら伝わるって言われた。
- S2：説得力のある表現を使うのも大事だね。
- S1：同じことでも書き方によって伝わり方が違うんだね。



図5 記事を推敲する様子

アドバイスを基にしながら、表現や叙述の仕方を考え、推敲に取り組んだ(図5)。『構想シート』にアドバイスを書いた付箋紙が貼ってあり、迷ったときにはそれを手がかりとした。アドバイスの全てを推敲に取り込むことができない生徒には、そのいくつかを選んで活用するよう支援した。

### 全体でのまとめの様子

- T：では、今日の学習を振り返ってみましょう。
- S1：自分では(記事の内容が)わかっていても、それを読む立場の他の人には伝わりにくい言葉があるとわかって、気を付けようと思いました。
- S2：伝えたいことを相手が分かるようにしっかり伝えるのは難しいと思いました。
- T：書くときには相手を意識することが大切ですね。



図6 まとめをする様子

叙述の仕方や表現の仕方は伝える相手によっても変える必要があること、的確な表現でないと自分の伝えたいことがうまく伝わらないということに気付くことができた。しかし、取組に時間を要する生徒がおり、記事を書き直す時間が十分とれないという課題が残った。

## 4 考察

- 生徒は、読み手によっては理解しにくい表現があることに気付くことができた。また、表現の仕方を少し変えることで伝わりやすくなることを知り、より説得力のある、分かりやすい表現に直すことができた。これは推敲場面でアドバイスをし合うという学び合い活動や、『構想シート』に他者からのアドバイスを貼り付けられるようにしたことが、視点を絞って推敲することにつながったためと考えられる。
- 推敲場面での取組に苦手意識をもつ生徒がいたが、これは既習事項の定着が不十分であることが原因と考える。構成・伝えたいことを中心・推敲の学習を単独で取り上げるだけでなく、各学習場面で学んだことをつなげて考えさせる学習過程を構想していくことが必要である。